

標 題 : Heart disease risk factor status and dietary changes in the
Cretan population over the past 30y: the Seven Countries Study
クレタ島住民における過去 30 年間にわたる心疾患危険因子の状況
および食事の変化 : 7 カ国研究

著 者 : A. Kafatos, et al. (ギリシャ クレタ医科大学 社会医学科)

掲 載 誌 : Am. J. Clin. Nutr. 65: 1882-1886 (1997)

要 旨 :

1960 年に 7 カ国研究に参加したクレタ島の生存する高齢被験者の心疾患危険因子の状況および食事の変化を確認するために、追跡研究を実施した。

1991 年に、元の男性参加者 686 人のうち 245 人からデータを得た(元の年齢群 40-49 歳の 169 人および 50-59 歳の年齢群から 76 人)。

1991 年に、男性は 70-79 歳および 80-89 歳であった。

血清総コレステロール濃度の有意な上昇(11.5%)が、1960 年と 1991 年との間にあった。

BMI および収縮期と拡張期の血圧も有意に上昇し、全ての年齢群は中心性肥満が特徴であった。

代表的なサブサンプルの男性 21 人が、3 日間の食品重量記録研究に参加した。

30 年間にわたる飽和脂肪の摂取増加および 1 価不飽和脂肪の減少を、食事データが示した。

1962 年の代表的なクレタ島民サンプルとの比較で、生存者サンプルで脂肪組織パルミチン酸(16:0)の有意な増加が示された。

大部分の心疾患危険因子の低下が多く先進国で観察された期間中に、観察された変化が生じた。

キーワード : クレタ島、7 カ国研究、コレステロール、食 事、心疾患、高齢者、
1 価不飽和脂肪、飽和脂肪、危険因子
